

# 2

## リミナリティと再活性化

---

Liminality and Revitalization

# 研究背景と目的

- リミナリティ(境界性)理論と東西思惟の接点
- 東学思想と大巡思想が近代性言説において持つ意
- 味リミナリティ理論の学際的適用背景と研究目標

# リミナリティ理論概観

- リミナリティ(Liminality)の定義:境界的状态
  - ◆ ラテン語「Limen」(敷居、threshold)から由来
  - ◆ 既存の構造と新たな構造の間の中間地帯
- 特性:曖昧さ、不確定性、多様な可能性
  - 死、子宮、闇、両性性などに比喻
- 創発性:予想しなかった新たな形態の出現
  - 変化以前の状態を包含しつつ超える「包越」
- 社会・文化的変化の機制としての価値

# ファン・ヘネップの通過儀礼理論

- アルノルト・ファン・ヘネップ(Arnold van Gennep, 1873-1957):通過儀礼(Rite of Passage)理論の創始者

1 分離儀礼(Separation): 以前の状態/地位から分離される段階

2 転移/リミナル(Transition/Liminal):境界的状态、過渡期的段階

3 統合儀礼(Integration): 新たなアイデンティティや地位へ再統合される段階

- リメン(Limen):敷居(Threshold)を意味し、新たな可能性が開かれる境界空間
- 通過儀礼は人類普遍的な現象であり、あらゆる社会に見出される

4

リミナリティと再活性化: 東学思想と大巡思想の自生的近代性

# ヴィクター・ターナーのリミナリティとコミュニタス

- リミナリティ概念の拡張: 社会的変化と危機克服の創造的過程
  - ◆ 通過儀礼から社会全般の変化分析のツールへ拡張
- コミュニタス(Communitas): 構造化された社会関係を越えた共同体性
  - ◆ 匿名性、平等性、弱者の逆説的力の特性
- 反構造(Anti-structure): 既存秩序の一時的解体と再構成
  - ◆ 社会的役割と地位の転覆、新たな可能性の創出
- 社会劇(Social Drama): 違反-危機-矯正/治癒-再統合/分裂の弁証法的過程

5

リミナリティと再活性化: 東学思想と大巡思想の自生的近代性

# リミナリティ理論の発展過程

- ファン・ヘネップ→ヴィクター・ターナー→エディス・ターナーへと続く学問的進化
- 宗教儀礼から社会変動、公演学、災害対応へと理論が拡張バウマ
- ンの「液体近代」、アイゼンシュタットの「多元的近代性」理論



# 近代性とリミナリティ

- バウマンの「液体近代」とアイゼンシュタットの「多元的近代性」理論はいずれもリミナリティ概念と関連

◆ ヘーゲルの弁証法が提示できなかった現代社会の問題点を分析する道具として注目される

液体性(Liquidity):近代性の両価性(ambiguity)を内包し、リミナリティの肯定的意味と連結

- リミナリティが近代性言説において持つ意義
  - ◆ 聖と俗の再配置による不確定性と創発的変化永続的リ
  - ◆ ミナリティ状態に置かれた現代社会の特性を反映
- 近代性の危機に対する代替的解釈の提供
  - ◆ 「産湯を捨てるとともに赤子まで捨てる」脱近代性の混乱の解釈

# 東学思想とリミナリティ

- 東学思想の相関的思惟と危機克服
  - ◆ 陰陽論的世界観とリミナリティの境界性
- 帝国主義時代の危機と通過儀礼的変換
  - ◆ 外部の衝撃に対応する自生的近代性の胎動

「東学思想は帝国主義のアジア支配における人種浄化の危機の中で、危機克服の通過儀礼として発生する。」

- 生命思想・相生の哲学とリミナリティの創発性



# 大巡思想と再活性化

- 大巡思想が東学の理想世界の実現を継承・発展させる方式
  - 東学の革新性と大巡思想の宗教的実践の連携
- コミュニタスと修行論的特性
  - 共同体的修行と日常における変化の実践
- 伝統の再構成および再活性化
  - 危機的状況で伝統を再解釈する創造的アプローチ
- 再活性化理論との接点
  - 危機克服のための伝統の活用と未来志向的变化

# 自生的近代性の特徴

- 西欧近代性と区別される東アジア的韓国的近代性

## 西欧近代性

- ◆ 弁証法的対立と克服
- ◆ 二分法的構造と伝統の断絶

## 自生的近代性

- ◆ 相関的思惟と統合
- ◆ 伝統の再活性化と連続性

- リミナリティと再活性化、相関的思惟の統合
  - ◆ 危機克服の内部的変化(リミナリティ)と外部適応(再活性化)の結合
  - ◆ 聖(聖)と俗(俗)の境界の変化を通じた新たな価値の創出
- 個体発生と系統発生の反復、身体の変  
性  
変化過程で蓄積される「身体」の経験と記憶
  - ◆ 加一倍法(加一倍法)と「化(化)」の原理:既存の基盤の上に一手を加える

# 理論的含意と意義

- リミナリティ・再活性化理論を通じた両思想の解明
  - ◆ 東学と大巡思想危機における変化と伝統の再構成
- 普遍性と特殊性の均衡的視点
  - ◆ 西欧近代性理論と東アジア思想の創造的統合
- 現代韓国社会との連携
  - ◆ 社会変動、共同体性、社会的危機克服の実践的含意

# 結論および今後の課題

- 要約:リミナリティと再活性化理論が提供する統合的解釈
  - 東学と大巡思想は、危機と転換のリミナリティ過程を通じた自生的近代性のモデル
- 研究の限界と今後の研究課題
  - 実践的側面におけるリミナリティ分析と現代適用事例の必要
- 社会的・学問的拡張可能性  
現代社会の危機のなかで共同体的コミュニティ実現のための理論的枠組みを提供